

令和3年度　社会教育委員会（第5回）　議事要旨

◇日 時

令和4年3月22日(火) 午後7時～午後8時

◇会 場

生涯学習センター 2階 学習室1

◇出席者

【委員】土屋委員長、大島副委員長、室伏委員、増田委員、一之瀬委員

井出委員、大庭委員、中川委員、小田委員、志田委員

【事務局】大塚生涯学習課長、勝又主席主査

◇会議次第及び内容（○は委員の発言）

1. 開 会 (事務局)

2. 委員長あいさつ

昨日でまん延防止等重点措置期間が終了し、施設の利用制限なくなつたが、本日東京電力の電力需給状況が厳しく20時以降に停電する可能性があるとのことなので、20時までに終わらせなければならなくなってしまった。短い時間になるがお願いしたい。

3. 報告事項

- ・各種委員会委員会の会議報告

特になし

(協議事項に時間をとれるよう、5.その他から説明)

5. そ の 他

- ・「社教情報」等の配布

「社教情報86号」、「地方行政」抜粋（小田委員の活動掲載）、「社教連会報89、90号」、「静岡県社会教育委員連絡協議会会報130号」を配布する。

- ・南小　夢と輝きの教育推進会の活動紹介（リーフレット「小南の魅力大発見」）

事務局（勝又）が1年間計4回活動を見学してきた内容を紹介した。

リーフレットについてだが、夢と輝きの教育推進会の第2回は6年生の子どもたちも参加して行った。6年生が総合的な学習の時間で南小や地域のために何かしたいと考えて、まずは地域のことをもっと知りたいというところで、大人と子どもでグループを作り、子どもの質問に大人が答えるという活動をした。子どもたちはその後も地域へインタビューする等の活動を重ね、このリーフレット作成に至った。

学校（校長先生）の思いを、保護者でない地域の方が聞くことのできる、会の持ち方が良いと思ったので、紹介させてもらった。

印象的だったのは、「子どもが身近にいないのでよく分からぬ」と話していた区長たちが、1年が終わるころには「役が終わってもそれぞれ出来ることがあると思うので」と発言するようになっていて、1年間の活動が今後の学校との関わりを深めたことを感じた。

- ・「市民活動の集い」について 令和4年3月26日（土）生涯学習センター
- ・社会教育関係者研修会アンケートの提出について（3月25日期限）
配信期間は3月31日（木）まで
- ・富士山資料館について 令和3年度末をもって休館

報道等で承知されていると思うが、富士山資料館は令和3年度末をもって休館する。施設の老朽化や耐震性能、入館者の減少、全市的なファシリティマネジメント推進の観点から決定した。令和4年度以降の方向性として、市内の既存施設に統合することを検討していく。休館中であっても資料館の目的の一つである「保存」の機能を維持し、収蔵庫としての利用は継続する。また、近隣学校の社会科見学や研究目的での来館については事前予約の上受け入れを行う。出前講座の対応も継続する。

- ・社会教育委員の交代がある場合の新委員の推薦について（3月31日期限）
任期途中ではあるが、推薦元の組織の都合上、委員の交代がある場合は新委員の推薦書を提出する。
- ・令和4年度第1回会議について 5月末～6月上旬予定
新年度第1回目については、教育長等にも出席依頼する回になるので4月に入ってから日程調整する。

（協議事項は委員長が進行）

4. 協議事項

- ・社会教育振興事業費補助金について

事務局より説明

社会教育法第13条において、社会教育団体へ補助金を交付する場合には、社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならない、とされているため、令和3年度の交付状況について説明。令和4年度予算については今年度並みを見込んでいる。

委員意見

○補助率が事業費の1/2である。以前は10/10出ていたところも1/2になった。補助金半分、参加者負担金半分で計画しても、参加者が集まらなかった場合は団体が不足分を負担しなければならない。バス賃借料などは参加者が減っ

ても減らせない費用である。そういった制限がある中では事業を計画しにくい。コロナとは関係なく、団体の活動が細ってきた原因である。市全体の流れではあるが、本当に必要なことを考えてほしい。

→社会教育に関わる団体はお金を稼ぐ団体ではない、ということは生涯学習課として府内でも伝えてきているが、市全体の基準から例外扱いにすることはできないでいる。しかし、地域のために動く活動であるということは言い続けていかなくてはいけないと考えている。

- ・「学校を核とした地域づくりのための環境整備」について
グループワークによる意見交換

残りの時間を使い、前回の続きからグループワークを実施した。前回の欠席者を加えた2グループで話し合った。

- ・地域と学校が関わる目標とする姿のために検討することは何か

大人も子どもも含めての人のつながり／人をつなぐための施策／場所（拠点）が必要で重要／行政の関わり方／地域住民が自分たちの「老後」の暮らしを意識する／地域とつながり続けることを望む 中学生の存在「部活と勉強」／「困った」を言い合える場を作る（背景課題の共有）／誰が実施主体なのか問題／お金がかかる場合のことを想定すべきか／学校と地域の情報共有の機会設定／CSDディレクターの意識改革／地域学校協働推進活動の推進役となる人材／地域の特技がある方の人材の発掘／学校教育、社会教育、地域の連携に対して行政はどう関わるか／先生が本音を出すことは可能か／集える場所の確保

途中で終了時間となってしまったため、次回に持ち越しする。

6. 閉　　会 (大島副委員長)